

熱田神宮のお社やしろと言え、今は誰でも伊勢神宮式いせいじんぐうしきの建物を

を思い浮かべます。でも、昔は全く違っていたのです。

おわりめいしよずえ

あつたのおおみや

かつおぎ\*

『尾張名所図会』に描かれた熱田大宮は、屋根に鰹木がひ

ちぎ\*

とつもなく、屋根の端の千木も出ていません。それに、お参

はいでん\*

りをする場所の手前に拜殿はいでんという見慣れない建物があります。

よりとも

さいぎようほうし

のぶなが

ばしやう

頼朝、西行法師、信長や芭蕉の見た江戸時代までの熱田

おわりづくり

ほんでん

どようでん\* しょうでん

さいもん

さんは、「尾張造」と言っ、本殿ほんでん(土用殿・正殿)と祭文

でん\* わたどの\*

はいでん

殿を渡殿わたりでんがつなぎ、その前に拜殿はいでんがあり、まん中の祭文殿さいもんか

さゆうたいしやう

かいろう

はいち

ら左右対称さゆうたいしやうに伸びた回廊かいろうが、本殿を四角く取り囲む配置はいちで

ほんでん

にぬ

しらかべ

ながれづくり

きりづまやね

まえがわ

した。本殿は、丹塗り白壁にぬ しらかべで、流造ながれづくりという切妻屋根きりづまやねの前側まえがわ

うしろがわ

つく

が後側うしろがわよりも長い造りを基本につくしていました。

やしろ

しんめいづくり\*

これに対し、今のお社は「神明造しんめいづくり\*」。伊勢神宮いせじんぐうの社殿しゃでんと

同じ様式です。何故こんなに違ちがうのでしょうか。また、いつか

ら変わったのでしょうか。

これは、明治という時代が深く関係してかいました。

たいせいほうかん\*

じんぐう(ら)

せんげ

大政奉還たいせいほうかん\*後の明治元年じんぐう(ら)(一八六八年)、神宮号せんげを宣下せんげされ

あつたじんじや

あつたじんぐう

な

た熱田神社は、熱田神宮あつたじんぐうと名を改め、同四年には官幣大社なに

じんじやしんとう

せいじ

列せられます。明治政府が神社神道じんじやしんとうを背景せいじに天皇中心せいじの政治

たいせい かくりつ  
体制を確立していく中、明治一〇年（一八七七年）に角田忠行  
だいくうじ \* しゅうにん  
大宮司が就任します。角田は、国の根幹となる皇位継承を  
せいとう  
正統ならしめる三種の神器の一つ、草薙神剣を祀る熱田神  
さんしゅ じんぎ  
宮は、伊勢神宮と同格であるべきだと主張し、明治二二年  
しゅちよう  
（一八八九年）建白書を提出して政府と交渉しました。結局、  
けつきよく  
これは伊勢神宮の猛反対で実現せず、伊勢神宮に次ぐ社格と  
しやくく  
なりましたが、角田は明治二四年（一八九一年）、社殿を伊勢  
いせい  
じんぐうじゅう つく か  
神宮風に造り換える了解を、政府から取付けます。  
とりつ

そして、明治二二年の伊勢神宮式年遷宮で払い下げられた  
しきねんせんぐう  
木材を利用し、政府に改築費用を拠出させ、明治二六年（一八  
せんぐう  
九三年）四月二六日、熱田神宮でも遷宮を実現したのです。そ  
れは、従来の尾張造の社殿の西側に、全く新しい伊勢神宮様  
式の社殿を建てて、「こ神体を遷すというものでした。そして、  
新しい本殿の屋根には、伊勢神宮と同じ一〇個の丸い鰹木が  
かつおぎ  
かがや  
輝いていました。

今、熱田神宮本殿は、当時、角田が建てた場所にあります。  
のぶながへい  
本殿南側は、信長塀が取り払われ、新しい参道が通っていま  
かぐらでん  
す。旧本殿の位置には、現在、神楽殿が建っています。その  
こくほう  
南の、信長塀の切れた場所が、戦災で焼失したかつての国宝

かいぞうもん\*

海蔵門のあったところです。そこから、南に真っ直ぐ延びる

けいだいせつしゃ

旧参道は、文化殿の玄関をかすめて、由緒ある境内摂社や

まつしゃ

みながら せいせつもん\* まえ

末社を左右に見ながら清雪門の前を通り、南駐車場に達し

くさなぎのみつるぎ\*

ています。明治の遷宮以前に草薙神剣が納められていた土

ようでん

かぐらでんほくとう ふくげん

おうじ

用殿は、戦災で焼失後、神楽殿北東の復元されて、往時を

伝えていきます。

ひやくねん

へ

百年以上の時を経た今、尾張造だった熱田神宮の姿は忘れ

みぢか

られつつあります。尾張造は、尾張各地で身近に見られた神

ますみだ

社配置の様式で、今でも津島神社や真清田神社等がそれを伝

かみちかま

たかくらむすびみこ

えています。しかし、地元の上知我麻神社、高座結御子神

ひかみあねこ

はいでん

せいとう

社、氷上姉御神社等は現在、拝殿が取り壊され、かつての正統

しやでんはいち

な尾張造の社殿配置は失われています。

【\*注】

鯉木…神社の屋根の棟木に直角に載せられた丸太状の飾り。一般に個数が多いほどで格が上。

千木…神社の切妻屋根の端に斜めに二本突き出た棒。伊勢では先端の切断方向で男神を区別。

拝殿…神職が祭祀、拝礼する建物。屋根付き壁なし板張りが多い。一般参拝はこの手前で行う。

祭文殿…祭文Ⅱ祝詞を読む場所。渡殿…本殿と祭文殿をつなぐ建物

土用殿…明治遷宮まで正殿と軒を並べていた熱田神宮特有の建物で、草薙神剣を祀っていた。

神明造…伊勢神宮様式の神社建築。但し、伊勢は他に全く同じ造りを許さない「唯一神明造」

とされ、熱田神宮は遷宮の際、細かく注文をつけられた。

大政奉還…徳川幕府から天皇への政治の実権の返還。

大宮司…当時の神宮のトップ。今は制度がかわり宮司がトップ。なお、熱田は古くは尾張氏、

平安末期からは藤原氏(後に千秋氏)が大宮司を世襲。角田が初の外からの登用だった。

海蔵門…信長塀よりも北の宮域を隔てた南門。この南に下馬橋(二十五丁橋)があった。

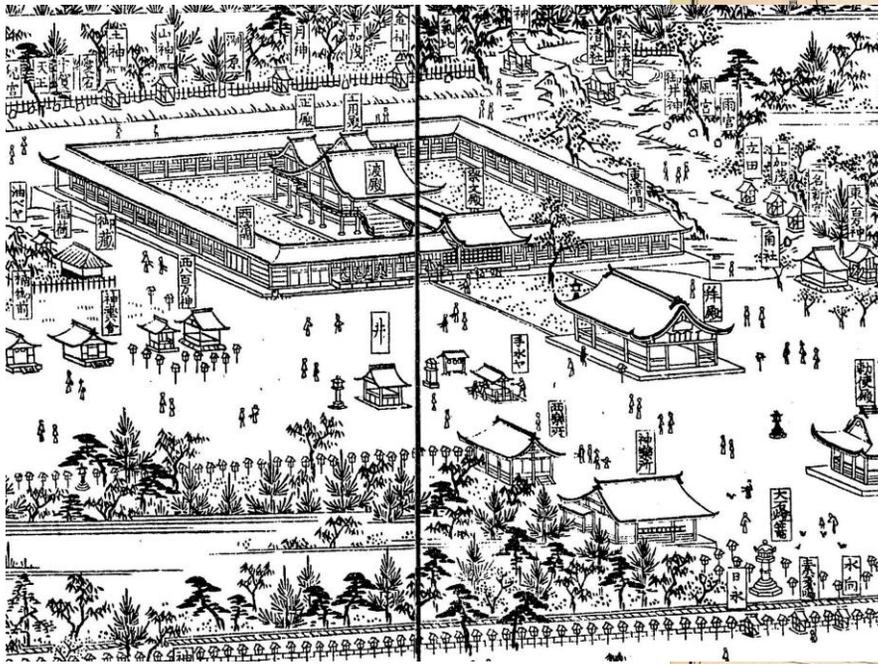
清雪門…四門中唯一戦災を免れた旧北門。本殿北にあったが、天智天皇七(六六八)年、新羅の

僧道行が草薙神剣をこの門から盗み出したのを不吉として移設。開かずの門とした。

草薙神剣…熱田神宮ご神体。素戔嗚尊がヤマタノオロチの尻尾から取出し。日本武尊が東征の際に焼津で草を薙ぎ、大高火上(氷上)の宮簀媛に預けて伊吹山に向かった。これを宮簀媛が熱田に祀ったのが熱田神宮の起源で、景行天皇四三(一一三三)年のこととする。

【参考文献等】

- 『角田忠行翁小傳』熱田神宮宮庁 一九八九年
- 『熱田神宮宮司・角田忠行 光と影』鬼頭勝之／著 私家版二〇一六年
- 『熱田大宮司角田忠行翁伝』田中善一／著『熱田風土記巻四』所収 久知会 一九六三年
- 『熱田神宮とその周辺』田中善一／著 名古屋郷土文化会 一九六八年
- 『熱田神宮宮記』熱田神宮宮庁／編集 熱田神宮宮庁 二〇一五年
- 『名古屋市史 地図篇』名古屋市／編 名古屋市役所 一九一五年
- 『名古屋市史 社寺篇』名古屋市／編 名古屋市役所 一九一五年
- 『尾張名所図会 上巻』愛知県郷土資料刊行会／編 愛知県郷土資料刊行会 一九七〇年
- 『名古屋今昔散歩』原島広至／著 中経出版 二〇一三年
- 『熱田神宮』篠田康雄／著 学生社 一九六八年



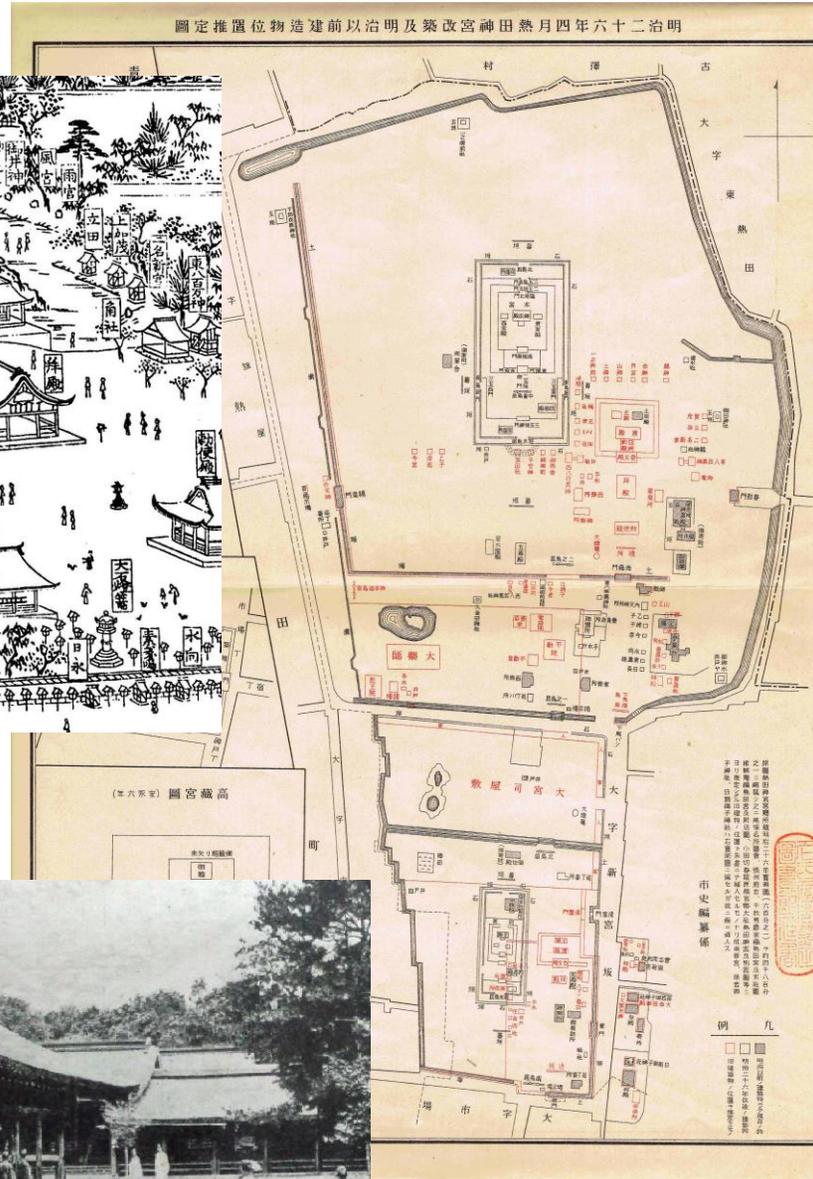
『尾張名所図会』前篇 3 熱田大宮其二より



2018年



明治初期(昭和10年遷座祭絵葉書より)



明治26年4月熱田神宮改築  
及明治以前建築物位置推定図  
『名古屋市史 地図篇』より